

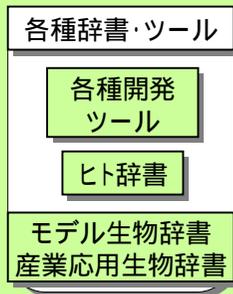
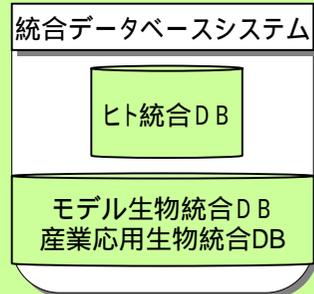
18年度成果の位置づけ(案)

情報・システム研究機構事務局

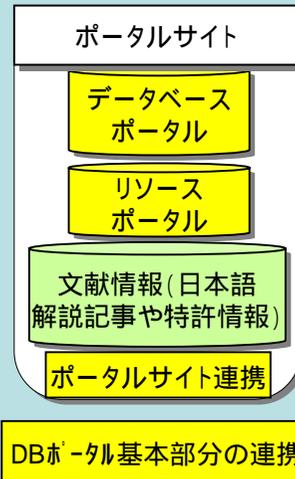
構築物

1. データベース統合戦略立案および評価(資料3-2)

18年度調査報告
 ゲノム注釈とデータベース間の連携における課題調査
 国内外のDBの俯瞰と質的量的比較
 ライフサイエンス分野の研究の俯瞰調査
 検索アルゴリズムを含めた知識情報技術の動向調査
 臨床情報や医療統計の現状調査

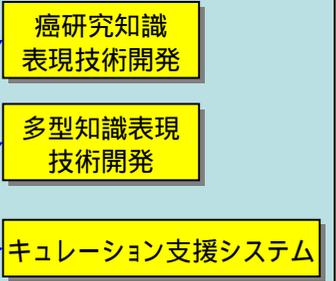


3. 人材の育成 4. ポータル構築(資料3-4)



2. データベース統合化基盤技術開発(資料3-3)

基盤知識表現技術開発(以下の辞書のプロト構築)
 遺伝子(遺伝子名揺らぎ吸収システムの開発)
 実験方法(メソッドオントロジとの連携システム開発)
 解剖学用語(解剖学用語表示システムの開発)
 バイオNLPリソースの整備



バンクコード俯瞰化のための索引技術開発

実施事項

統合化およびDB利便性向上のための動向調査・戦略立案支援

ヒト統合DB開発
 モデル生物統合DB、産業応用生物統合DB開発

情報技術開発

ポータルサイト運用・高度検索サービス提供

広報・教育・国際対応・産学連携

教育プログラム、教材の開発
 キュレータ・アノテータの養成
 DB管理者、DB構築者の養成
 DB高度利用者の養成

支援

プロジェクトDBの受け入れ
 基盤的DBの支援
 新規DBの開発支援

動向調査、及びそれに基づく戦略立案

辞書構築、知識整理、アノテーション実施
 文献情報(日本語解説記事や特許情報)との連携
 統合DB構築
 医学、薬学関連情報との連携
 生命研究、産業応用のソフト開発

文献中のテキストとそれ以外のデータからの知識獲得利用技術開発
 統合DB構築、DB標準化、DB相互運用性向上技術開発

ポータルサイト、高度検索サービスのための各種情報収集と自動化技術の開発
 意見集約システムの開発
 パーソナル化技術の開発と日本語化

優先実施事項
 18年度実施事項